

青少年赤十字創立100周年事業推進校実践事例集

～未来のあなたへ、やさしさを～



2022

はじめに

- 青少年赤十字は、第一次大戦（1914～1918）時にカナダ・アメリカ・オーストラリアの児童・生徒たちがヨーロッパの戦場となった国々の少年・少女や傷病者を慰めるためクリスマスカードや手紙を贈ったり、学校には文具、傷病者には下着や副木・つえなどの援助を行ったりしたことに始まります。
- 日本においては、日本赤十字社や文部科学省のバックアップを受け、現在の滋賀県守山市立守山小学校の校長先生が中心となって、1922年（大正11年）に日本で最初の少年赤十字団が結成されました。
- それ以来、加盟校（園）の皆さんは赤十字のことを正しく理解し、進んで赤十字運動に参加したり、青少年の一人一人が世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、①「健康・安全」②「奉仕」③「国際理解・親善」の3つを「実践目標」として掲げ、学校（園）や日常生活の中で、望ましい人格と精神を自らつくりあげる活動を行ったりしてきました。
- 特に、2022年は青少年赤十字創設100周年の年にあたり、「未来のあなたへ、やさしさを」をスローガンに、本社をはじめ全国の支部を挙げて記念事業に取り組み、JRC事業の一層の理解促進と普及を目指し取り組みました。
- 岐阜県支部においては、JRC加盟校（園）のみなさんの協力を得ながら、「JRC文庫」の設置や本社事業への協力など「100周年事業」に取り組みました。その取組の一つとして、本事業「青少年赤十字創立100周年事業推進校」を5校（園）指定し支援をさせていただきました。
- これらの推進校（園）においては、この一年間、青少年赤十字の精神のもと100周年を意識しながら「健康安全」、「奉仕（福祉）」、「国際理解・親善」に関わる活動に取り組んでいただき、大きな成果を上げていただきました。
- どの学校、幼稚園も工夫された興味深い実践がなされ、園児、児童生徒の皆さんが生き生き活動する様子が本事例集にまとめられていますのでぜひご覧ください。
- 本事例集をまとめるにあたり、貴重な実践成果をご紹介いただいた推進校（園）の校長先生、園長先生方にお礼を申し上げますと共に、大変ご多用の中、原稿の執筆等にご協力いただきました先生方には心より感謝を申し上げます。



青少年赤十字創立100周年事業推進校（園）

- 1 岐阜市立加納幼稚園 ……p 1
- 2 上楽学園 ながもり第二幼稚園 ……p 2
- 3 岐阜市立長良東小学校 ……p 3, 4
- 4 郡上市立大和西小学校 ……p 5
- 5 揖斐川町立谷汲中学校 ……p 6, 7

園名	岐阜市立加納幼稚園 (園長 広瀬 みゆき)
活動の種類・単位	保健安全の中の“性の指導”について取り組んだ。
教育課程上の位置付け	保健教育



1 活動テーマ

自分を愛し、自分を大切にし、自分らしさを出せる子を育てるために
～幼児期の性の指導を通して～

2 主な活動内容

(1) 「保護者ほけん座談会～幼児期の性の指導について～」の実施

子どもたちに性の指導を実施する前に、保護者の理解を深めるため、「保護者ほけん座談会～幼児期の性の指導について～」を実施した。性の指導について、きっかけや必要性、幼児期に知らせたいこと、年間計画等について話をした。また、実際に子どもたちに行う、パネルシアターによる模擬指導も実施した。



▲保護者ほけん座談会

(2) 性の指導①「たいせつなからだ」全園児

体重測定の時間の一部を使って、体の名称やプライベートゾーンについて話をした。性器にも、目や鼻と同じように名称があること、男女で性器の形等が違うのは、大きくなったら、赤ちゃんのもとや赤ちゃんの卵が作られるためであること等を知らせ、とても大切な自分だけのもので、“プライベートゾーン”と呼ぶことを知らせた。自分の体は世界中にたった一つしかない大切なものなので、大切にしよう伝えた。

(3) 性の指導②-1「命の誕生」4, 5歳児

絵本をもとに作成したパネルシアターを使って、命の誕生について知らせた。性交・出産の神秘・すばらしさや、自分は、まわりの大人の愛情の中、自分の力で生まれてきたこと等について話した。3 成果と課題

(4) 性の指導②-2 「私の始まりの大きさ」 5歳児

②-1の翌日、さらに自己肯定感を高めたいと考え、5歳児のみに受精卵の大きさや母体の中でのどのように大きくなったかについて、実際の胎児の心音や写真を紹介し、生まれてくる仕組みについても科学的に神秘的に知らせ、自分の体のすばらしさや大切さについて伝えた。



▲胎児の様子を聞く



▲赤ちゃん人形を抱っこする園児

3 成果と課題

① 子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体のすばらしさを知り、自分を大切にしようする力。 ・友達も皆大事な子だとわかり、友達にやさしくする力。
② 今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の性の指導を通して、自分を(さらにまわりの子も)大切にしようとする子を育てるために、継続して取り組んでいく。
③ JRC に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児のクラスでは、赤十字の旗を見て病院をイメージし、赤十字マーク入りのアイテムを作り、それを身に付けながら遊ぶ、お医者さんごっこを楽しんでいた。 ・友達が困っていたり泣いていたりとすると、近くの先生に伝えたり、職員室に駆け込んできたりする子が増えた。 ・年長児では、友達の思いに寄り添い、譲り合う気持ちも出てきた。

園名	学校法人 上楽学園 長森幼稚園 (園長 元田 秀人)
活動の種類・単位	年間を通して健康安全の活動を地域と連携して取り組んだ
教育課程上の位置付け	健康・人間関係の領域



1 活動テーマ

強い心と体を作って正しい暮らしをめざそう

2 主な活動内容

(1) 園庭でののびのび遊び

園児たちは、登園してから午前保育が始まる1時間余りと帰りの挨拶後の1時間に外遊びやお部屋遊びを行っている。遊具や砂場での遊び、ボールやフラフープなどの用具を使った遊び、草木の中の虫探しなど、少人数で楽しく遊んでいる。また、夏は小プールや園内の川での水遊び、秋は落ち葉やどんぐりを拾っての遊びなど、季節の遊びを楽しんでいる。1年を通して、元気に遊び、健康な体と強い心を育む園児の姿が見られた。



▲夏の水遊び

(2) 歯科の健康づくり

今年度新たに県立衛生専門学校の歯科衛生学科の学生の臨地実習を受け入れた。のべ21名の学生が3日間の実習を行った。食事の仕方や歯の状態を観察するだけでなく、遊びや保育など積極的に園児と関わり、自作の紙芝居を通して、歯磨きの大切さを教えてもらった。園児たちは「食べた後はお家で歯磨きしてるよ」「仕上げはお母さんにしてもらおうよ」「歯ブラシは小さく動かすんだね」などと興味深く反応し、歯磨きへの意欲を高めていた。後日、保護者にも歯の健康づくりについてのお話をする場を設けた。



▲実習生の紙芝居

(3) 地域との連携 いもほり活動

園の前にある畑での芋ほり体験が2年目を迎えた。5月に苗を植え、茎の部分を土に斜めにさしている様子や葉が茂って土が見えなくなっていく生長の様子を園児たちは窓から毎日眺めていた。創作の時間に葉や芋を紙に書いたり立体的に作ったりして収穫までに活動を通して楽しみにしていた。いよいよ11月上旬の収穫の日、一人3つの茎を割り当てとして芋ほり活動を行った。



▲秋のお芋の収穫

袋いっぱいに入った大きな芋を抱きかかえ、収穫を喜び合った。「ありがとうの会」では農家のおじさんに、感謝の気持ちを伝えることができた。

3 成果と課題

① 子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・元気いっぱい遊びに夢中になる力がついた。 ・歯磨きの大切さが分かり、毎日の歯磨きへの意欲を高めた。 ・お世話になった地域の人たちに感謝の心をもつことができた。
② 今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の人たちに教えてもらい、健康で安全な生活をしようとする意欲を高める。 ・県立衛生専門学校の臨地実習について歯科衛生科・看護学科の実習を積極的に受け入れる。 ・近隣の幼稚園、小学校との交流や防災連携を進める。
③ JRC に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期に園庭に赤十字テントを常設したり避難訓練の本部に旗を設置したりして、園児なりに赤十字が身近に感じられるようになった。 ・遊びや収穫を通して、思いやりの心、感謝気持ちを表現することができた。

学 校 名	岐阜市立長良東小学校 (校長 河井 信幸)
活動の種類・単位	防災教育、全校児童
教育課程上の位置付け	学級活動、総合的な学習の時間



1 活動テーマ

「命を守る ～自分・家族・地域の命を守れるように～」

2 主な活動内容

(1) 令和4年5月7日(土)

青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した防災学習

土曜授業日に実施の「災害時引き渡し訓練」に合わせ、全学年で「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した防災学習を実施した。

4年生では、「災害時シミュレーション」を行った。家族構成などを考えながら、かばんに入れるものを選んでいった。「水があればしばらくは生き延びられるから、命を守ることを第一に考えて水を選んだよ。」「毛布は避難所にありそうだから、かばんには入れなかったよ」「お金をもっているけど、お店がやってないと思う。」など、一人一人真剣に考えながら選ぶことができた、また、仲間と交流することで、様々な考えに触れることができた。

5年生は、「積乱雲を知ろう」のワークシートを使い、野外学習（6月実施）のオリエンテーリング時を想定した学習をした。理科の「天気」の学習とも関連させて、教科等横断的に学ぶことができた。



<4年生 災害時シミュレーション>

<5年生 積乱雲を知ろう>

<6年生 地震から身を守ろう>

(2) 令和4年11月12日(土) 5, 6年生対象

宮城県東松島市立矢本第一中学校 校長 平塚真一郎 先生 による防災講話

東日本大震災でお子さん（当時大川小学校6年生）を亡くされた平塚真一郎先生をお招きし、『未来をひらく～つながる命 つなげる命～』をテーマに命の授業を実施した。子どもたちは講演を聴き、自他の命について真剣に考えるとともに、災害について自分事として捉え、防災意識を高めることができた。講演会を通して、子どもたちは、自分の命も他人の命もかけがえのないものであり、共に助け合いながら、大切にしていこうという気持ちをもつことができた。今後は、今回学んだことを下学年の子どもたちや地域の方々にも発信し、地域ぐるみで命の大切さについて考えていくことができるようにしたい。



<平塚真一郎 先生>



<講演を聞5, 6年生>



<講演後のグループ交流>

<講演後の児童の感想>

- ・ 平塚先生のお話を聞いて「空ぶりOK、見逃しNG」という言葉が心に残っています。「危険」だと思って遠くへ逃げて結果的に危険ではなかったという場合はいいけれど、「多分大丈夫だろう」という気持ちで避難せずに命を落としてしまっただめだと感じました。
- ・ 東日本大震災当時にどんなことがあって、どのようにこれからの未来に備えていくとよいかについて学びました。岐阜では、津波は考えられませんが、平塚先生が話していたように、洪水やがけ崩れなどの二次災害が起きる可能性があります。だから、二次災害に備えて、ハザードマップを活用したり、命を守る行動をとったりし、自助はもちろん、共助や公助もして、みんなで災害を乗り越えたいと思いました。
- ・ 講演を聞き、改めて地震や津波はとても恐ろしいということを感じました。実際にそのような状況になった時のために、しっかりと訓練を受けて、自分の命を自分で守れるようにしたいと思いました。地震などの災害が起きたときには、訓練を生かして動けるようにしたいです。

3 成果と課題

① 子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none">・ 命はかけがえのないものであり、命を守るためには最悪を想定して念のための行動をとることが必要であると実感することができた。・ 地震等の災害が起きた時に、危険を回避する力や命を守るためにどのような行動をとるとよいのかを理解することができた。・ 防災グッズを準備したり、家族で避難経路や連絡方法を話し合ったりするなど、日頃から災害に備えておくことの大切さを考えることができるようになった。・ 地域（学校外）で生活しているときに災害に遭った場合の行動についての学習が不十分である。
② 今後の方向	<ul style="list-style-type: none">・ 来年度は地域と連携し、地域主催の防災訓練に全校児童が参加する。地域の防災体制を見学するとともに、高学年においては、地域の一員として小学生にできることについて体験を通して学ぶ。・ 家族や地域の方と一緒にハザードマップを確認し、校区で起こりうる災害を想定しながら災害に備えることができるようにする。
③ JRC に対する理解	<ul style="list-style-type: none">・ キックオフの会や平塚先生による『未来をひらく～つながる命 つなげる命～』の講演を通して、人々が助け合うことや、みんなが幸せになることの大切さを実感することができた。・ 今年度、キックオフの会と講演会に参加した児童は高学年のみだったため、来年度は全校児童がキックオフの会に参加できるようにし、優しさや思いやりの心が育てられるようにしたい。また、「いじめを見逃さない日」や「ひびきあいの日」などの活動とも関わらせながら、命の大切さや思いやりの心を育てていきたい。

学 校 名	郡上市立大和西小学校 (校長 猪俣 哲夫)
活動の種類・単位	福祉に関する講話や体験活動から学ぶ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間



1 活動テーマ

「今私たちにできること」高齢者と共に生きる大和町づくり

福祉体験をしたり、地域の防災について調査したりする活動を通して、誰もが幸せに暮らすことができる社会の在り方や、自分たちにできること・自分の将来について考え実践することができる。



高齢者疑似体験

2 主な活動内容(福祉に関して)

(1) 福祉体験講座

- ① 高齢者疑似体験
高齢者や視覚障がいの疑似体験を通して、その不自由さを体感し、必要なサポートやよりよい介助について考えた。
- ② 視覚障がい疑似体験
高齢者や視覚障がいの疑似体験を通して、その不自由さを体感し、必要なサポートやよりよい介助について考えた。
- ③ 車いす体験
車いすについて学び、実際に乗って動かしたり人が乗っている車いすを操作したりする体験を通して介助の仕方を学んだ。

(2) 子ども認知症サポーター養成講座

認知症について理解を深め、自分たちにできるサポートについて考えた。

(3) 福祉講話と体験

- ① 車いすバスケットボール選手の講話
車いすバスケットボール選手から生き方等に関する話を聞き、質問したり一緒に車いすバスケットボールを行ったりした。



車いすバスケットボール

3 成果と課題

① 子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者や視覚障がいの疑似体験や車いすに乗ったり扱ったりする体験を通して、その不自由さについて理解し、自分たちにできるサポートや相手に合ったよりよい介助について考えることができた。 ・ 高齢者や障がいのある方の暮らしについて理解し、正しい人権感覚をもつことについて考えを深めることができた。 ・ 認知症や高齢者、視覚障がいについて学んだことを通して、相手を理解し、思いやることの大切さを考えることができた。
② 今後の方向	<p>今後も、福祉に関わる体験的な活動や障がいのある方の話を聞く等の学習を通して、障がいに関わらず自らを高めていくたくましい生き方に共感し、尊敬の思いをもてるようにする。そこから自分の生き方について振り返ったり、社会の一員として自分にできることについて考えたりしていきたい。</p>
③ JRC に対する理解	<p>JRC が実践目標として掲げている3つのうちの「奉仕」と本校のめざす「やさしさ自慢の学校」の重なる点について確認し、さまざまな福祉体験活動を行うことで、人の役に立つことをうれしいと感じる気持ちや相手を理解し思いやる気持ちを育てることができた。</p>

学 校 名	揖斐川町立谷汲中学校 (校長 伊東 武敏)
活動の種類・単位	奉仕・福祉活動を「ふるさと」をテーマにし地域と連携して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間



1 活動テーマ

「谷汲」の未来を切り開くのは自分たちであることに気付き、何ができるのかを共に考えながら、ふるさとを誇りに思う心や未来社会を逞しく創造する力を育成する。

2 主な活動内容

- ・サンサンフリーマーケット（開催ボランティア・販売・ウクライナ募金など）
- ・小中合同ひびきあい集会
- ・小中授業交流会
- ・揖斐特別支援学校との交流
- ・独居高齢者へのお手紙

3 成果と課題

① 子供たちに付いた力	小学生や地域の方たちと関わる場が増えることで、コミュニケーションの力や自己表現をする力がついてきた。また、人との関わりに喜びを感じることでできる生徒が増えてきた。
② 今後の方向	地域との連携をさらに図りながら、谷汲の一員としてできることを考え、今後も実践していく。
3 JRC に対する理解	<p>人権課題について生徒会が中心となって考え、戦争で苦しんでいるウクライナへ募金をしたいという声が生徒からあがり、サンサンフリーマーケットで募金活動を行った。サンサンフリーマーケットでは、運営などのボランティアにも参加をさせてもらい、地域の中で活動する楽しさを味わった。</p>  <p style="text-align: center;"><ウクライナ募金></p> <p>また、総合的な学習で地元の木材を使って木のおもちゃを制作し、幼稚園へ寄付をした。幼稚園の子に喜んでもらえるように動くおもちゃを計画したり、安全性も考えたりしながら制作をした。角がないように時間をかけてヤスリもかけた。幼稚園の子に渡したらとても喜んでもらえた。もっと違うものを作って、プレゼントしたいという生徒もいた。</p> <p>小学生との授業交流では、中2の生徒が小2～小5の児童に算数の授業を実施した。中学生</p>  <p style="text-align: center;"><幼稚園に手作りおもちゃを寄付></p>

は、授業や板書の計画をし、何度も模擬授業を重ねて本番に臨んだ。小学生の子のことを考え、どんなところが難しいのか、どんな話し方だと分かりやすいのかなどを仲間と一緒に考えた。

いろいろな場で相手のことを思いながら行動することの大切さなどを体験しながら学ぶことができた。また、相手の喜ぶ顔や感謝の言葉からとても有用感を感じることができた。



<小学生に算数の授業>